外力について(3)

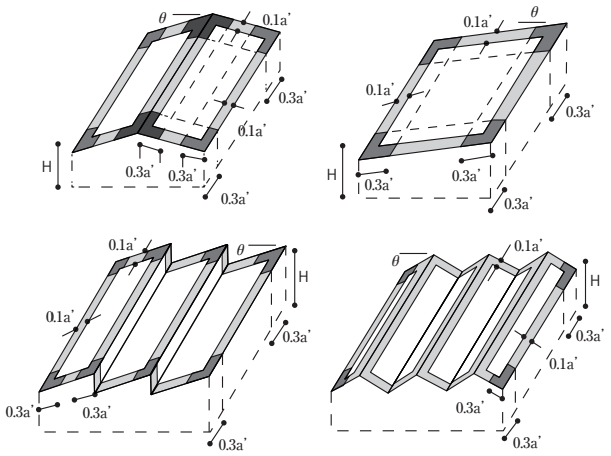
風荷重③

ピーク風力係数について

●切妻屋根面、片流れ屋根面及びのこぎり屋根面の負のピーク外圧係数

部位 ＼ θ	10度以下の場合	20度	30度以上の場合
の部位	−2.5	−2.5	−2.5
の部位	−3.2	−3.2	−3.2
の部位	−4.3	−3.2	−3.2
の部位	−3.2	−5.4	−3.2

この表において、部位の位置は下図に定めるものとする。また、表に掲げるθの値以外のθに応じたピーク外圧係数は、表に掲げる数値をそれぞれ直線的に補間した数値とし、θが10度以下の切妻屋根面については、当該θの値における片流れ屋根面の数値を用いるものとする。

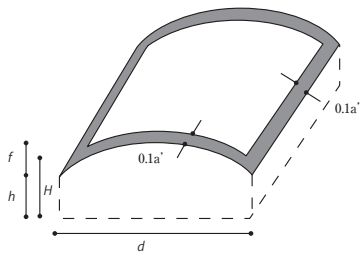


この図において、H、θ及びa'は、それぞれ次の数値を表すものとする。
H： 建築物の高さと軒の高さとの平均(単位：メートル)
θ： 屋根が水平面となす角度(単位：度)
a'： 平面の短辺長さとHの2倍の数値のうちいずれか小さな数値(30を超えるときは、30とする)(単位：メートル)

●円弧屋根面の負のピーク外圧係数

の部位	−2.5
の部位	−3.2

この表において、部位の位置は、下図に定めるものとする。

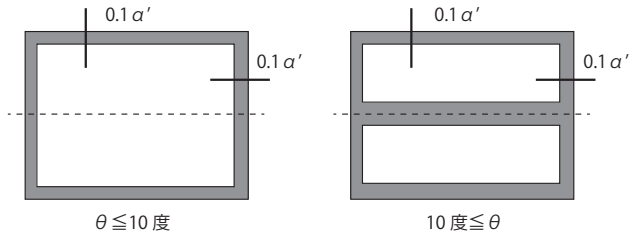


この図において、H、d、h、f及びa'は、それぞれ次の数値を表すものとする。
H： 建築物の高さと軒の高さとの平均(単位:メートル)
d： 円弧屋根面の張り間方向の長さ(単位:メートル)
h： 建築物の軒の高さ(単位:メートル)
f： 建築物の高さと軒の高さとの差(単位:メートル)
a'： 平面の短辺の長さとHの2倍の数値のうちいずれか小さな数値(30を超えるときは、30とする。)(単位:メートル)

●独立上家の風圧係数Cfにかける係数Gpe(勾配10°以下の最大値:Cf=-1.0)

の部位	3.0
の部位	4.0

この表において、部位の位置は、下図に定めるものとする。

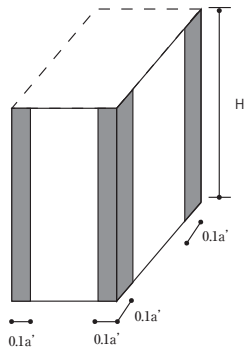


この図において、θ及びα'は、それぞれ次の数値を表すものとする。
Θ：屋根面が水平面となす角度(単位:度)
A'：平面の短辺長さとHの2倍の数値のうち、いずれか小さな数値(30を超える時は、30とする。)(単位:メートル)

●帳壁の負のピーク外圧係数

部位 ＼ H	(1) 45以下の場合	(2) 45を超え、60未満の場合	(3) 60以上の場合
の部位	-1.8	(1)と(3)とに掲げる数値を直線的に補間した数値	-2.4
の部位	-1.8		-3.0

この表において、部位の位置は、次図に定めるものとする。



この図において、H及びa'は、それぞれ次の数値を表すものとする。
H： 建築物の高さと軒の高さとの平均(単位：メートル)
a'： 平面の短辺の長さとHの2倍の数値のうちいずれか小さな数値(30を超えるときは、30とする。)(単位：メートル)

●帳壁のピーク内圧係数

閉鎖型の建築物	ピーク外圧係数が0以上の場合	−0.5
	ピーク外圧係数が0未満の場合	0
開放型の建築物	風上開放の場合	1.5
	風下開放の場合	−1.2